

IV 事業概要

3 社会教育事業

【1 生涯学習に関すること】

(3) 自然観察会

①「焼河原の化石」(4月22日参加者数76名)

泉区焼河原に露出する竜の口層は、タカハシホタテやセンダイヌノメハマグリ、タツノクチサルボウなどの貝類を中心に、寒流系の海の生物の化石を多産するとともに、上部の向山層からは高温型石英や軽石なども採集でき、当時の環境について理解を深められるフィールドである。また、採集地を流れる西田中川は、比較的水量も安定していた。河床に広がる化石も発掘が可能であり、参加者は約2時間の活動で多くの成果をあげることができた。応募者が多いイベントのため、30年度から午前・午後の2回の採集会を実施した。



②「川崎鉱山跡の鉱物」(5月27日参加者数66名)

川崎町西部の川崎鉱山跡を採集地として、鉱物採集会を実施した。川崎鉱山は、大正期から終戦まで主に銅を採掘した鉱山で、精錬所跡には、現在も当時の鉱滓(スラグ)が残されている。

採集地は名乗沢の砂防ダムから10分ほど登ったズリ山で、黄鉄鉱、黄銅鉱、石英、閃亜鉛鉱などの鉱物がとれる場所である。応募者が多いイベントのため、30年度から午前・午後の2回の採集会を実施した。



③「台原森林公園の昆虫」(7月7日参加者数20名)

今年は、悪天候のため台原森林公園の昆虫を観察、採集することはできなかったが、宮城昆虫地理研究会から講師を招き、講師の指導の下、標本作りを行った。午前中は昆虫採集の説明の後、渡りをする蝶アサギマダラの生態について学習した。午後は昆虫に関する講義の後、研究会が持参したチョウで展翅の練習を行った。指導経験豊富な講師の説明は大変わかりやすく、展翅板を使った本格的な標本作りは初めての参加者に大変好評であった。作製した標本は乾燥が必要のため、後日行われた昆虫相談会の際に持ち帰ってもらった。



④「茂庭層の化石」(10月22日参加者数79名)

太白区北赤石の名取川河床に露出する茂庭層では、貝類を中心とした多種多様な亜熱帯性生物の化石を観察することができる。また、高館層時代に貫入した安山岩脈も観察できる。

例年参加者の多くは化石採集の初心者であるが、約1時間30分の活動で、ムカシマユツクリなどの巻き貝や二枚貝など、多くの化石を採集することができる。応募者が多いイベントのため、30年度から午前・午後の2回の採集会を実施した。

